図書館へむかう道すがら

小田秋雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

図書館へむかう道すがら

【Ｎコード】

Ｎ８９１７Ｏ

【作者名】

小田秋雪

【あらすじ】

図書館へむかう道すがらの考え事。

図書館へむかう道すがら、出がけに麦茶を冷蔵庫にしまった時ふと目にとまったチーズかまぼこが頭を離れなかった。そのチーズかまぼこはもうかれこれ三年以上はそこにあったものだ。私は一度として、チーズかまぼこに食欲をそそられたことはないのに。

それは私が一人暮らしを始めて二カ月か三カ月か経った頃、実家から送られてきた荷物に入っていたものだった。私が好きなチョコチップクッキーやお米と一緒に。箱のふたを開けて四箱も並んだクッキーのパッケージがまず目につき、それから小分けにされたお米、そしてチーズかまぼこを発見した時、この荷物を準備している両親の姿が目に浮かんだ。

きっと最初にクッキーを詰めたと思う。それからお米、重さを分散して箱に詰めやすくするために袋に小分けにしたんだろう。全部合わせたらニキロ分ぐらいになったはずだ。それからなにか他に送ってやるものはないかと冷蔵庫を開けて、そして家族のお弁当用のチーズかまぼこが未開封なのを見つけた父か母が、それを箱にいれたのだ。他にもインスタントのお味噌汁やコーヒーが入っていたように思う。

私が決して食べたいと思ったこともなく、また食べたことだってないチーズかまぼこ。それは結局いまだに未開封のまま、冷蔵庫にある。親がそのことに気付かなかったことくらいで自分が愛されていないだなんて、大げさなことを思ったわけじゃない。ただ、そんなもんなんだなって、三年以上もたった今になってはっきりと気付いたのだ。私だってきっと、家族にとったらそんなもんなんだ。

親は私を愛してくれているからこそ、あの荷物を送ってくれたのだし、その後も何度か荷物は届いた。そのたびに私は嬉しかったし、

家族が懐かしくて夏休みや冬休みが待ち遠しくなった。でもチーズかまぼこはなくならない。私には食べられも、捨てられもできない。

いままでなんとなく確信していた、「自分以上に私を愛し、かわいがる事のできる誰かは絶対にいないだろう」という思い込みの根拠が、ようやく見つかった気がした。

図書館へむかう道すがら、秋の風が冷たくて、清々しくて惨めだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8917o/

図書館へむかう道すがら

2010年11月13日21時11分発行